

橿原市昆虫館だより

G O N T A

(通巻 45 号)

Vol.12 No.1

新しい年を迎えて

あけまして おめでとう ございます

新年は希望に満ちて、新たな計画を立てるときでもあります。振り返ってみますと私など計画どおり事が運んだためしは一度もございません。が、何となく今年は、と云う希望がわいてくるものです。もちろん本年も、目標に向かって努力して参りたいと考えております。

昨年、橿原市昆虫館では「五感で感じる昆虫館」と銘打って、多彩な展示・催し物を大勢の人達のご協力を得て行い、健常者の人達と共に障害者の人達にもお越し戴き喜んでもらえました。

さて、国内外では、色々な出来事がありました。テロにより多くの罪のない人々が犠牲になりました。また、海洋実習船と潜水艦衝突事故や狂牛病発生等。一方、明るくて夢を与えてくれた内親王殿下の御誕生や、「イチロー選手」のアメリカでの活躍等など。

経済不況による社会情勢の不安が、まだまだ続きそうな見通しがあります。このような時期だからこそ、今年も昆虫館の職員一同創意工夫をし、多くの人達に参加戴き、観てもらえる教室・観察会・特別展の行事等を行って参りたいと考えております。

皆様方のご来館を心よりお待ちしております。
併せて、関係各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成十四年一月

橿原市昆虫館館長 上村 修久



ひょうほん つく
標本を作ってみよう(3)し ん だ む し と
死んだ虫が飛ぶ?! ~展翅編~

このシリーズも3回目。これまで昆虫の翅^{はね}を開いた標本を作ってきましたが、今回はいよいよ翅を開いて標本を作ります(展翅^{てんしへん})。チョウやガ等、大きな翅を持つ虫を飛ばしてみましよう。思い通りに飛んでくれるかな?

今回の展翅に適しているのはチョウやガの仲間ですが、いずれも死んだらすぐに標本作りを始めるのが、きれいに仕上げるコツです。トンボも途中までは同じ方法で出来ますが、冷凍庫で乾燥すると色落ちが少なくなくて良いでしょう。まずは、GONTA36号P7と41号P3を読んで復習しておいてね。

①まず、標本を作る台(展翅板^{てんしばん})作りです。翅をピンセットでそっと広げ、大体のサイズを測ります。

②虫の大きさに応じたスチロール性トレイを選び、やや大きめに段ボール箱を2枚切り、両面テープ等で2枚重ねにして台紙を作ります。

虫の腹部の幅に合わせ、カッターナイフでトレイの中央を切り抜き(幅8~15mm程)、切った短冊を台紙の中央に両面テープ等で貼ります。短冊とトレイの切り抜きが重なるよう、トレイを台紙にテープやまち針で、しっかりと留めます。

③翅より狭い幅で、トレイよりやや長めにパラフィン紙を切り、端をトレイに針で留めます。これで展翅板は出来上がり。

④標本にする昆虫の胸部中央に、背中側から針(昆虫針が望ましい)を刺します。その際、虫の体と針が垂直になるように! 針の上の方を持ち、展翅板中央の短冊にそっと刺し、虫の翅とトレイの上面が重なるまで沈めます。その際、脚をトレイの溝に、形よく収めておきましょう。

⑤位置が決まったら、次に形を作ります。ピンセットやまち針の先を使って翅を広げ、パラフィン紙で押さえ、翅の周囲を針で留めていくのです。つまり、トレイとパラフィン紙で翅を挟んで固定するので、虫の体に刺す針は胸の1本だけ。

⑥翅の形が定まったら、今度は触角^{しゅっかく}と腹部です。触角はまち針で、腹部は脱脂綿で持ち上げるようにして形を整えましょう。翅・触角・腹部・脚、全部の形が整ったら、ラベルを横に留めておきます。

⑦乾燥箱の隅に防虫剤を2~3個留め、展翅板ごと乾燥箱に入れ、冷暗所で1~2カ月乾燥します。

⑧保存箱の壁面にも防虫剤を貼りつけ、底には発泡スチロール板か段ボールを敷いて、針を刺し易くしておきます。

⑨標本がしっかり乾いたら、展翅板のまち針やパラフィン紙をそっとはずし、針を持ち上げて保存箱に移します。その際、ラベルも一緒に刺しておきましょう。



用意するもの

◇シリーズ(1)・(2)と同様、乾燥箱・保存箱・脱脂綿・防虫剤・ピンセット(竹串)・パラフィン紙(硫酸紙)、ハサミ・テープ・筆記用具、以外に…

◇段ボール箱(紙): 発泡スチロール板でも良い

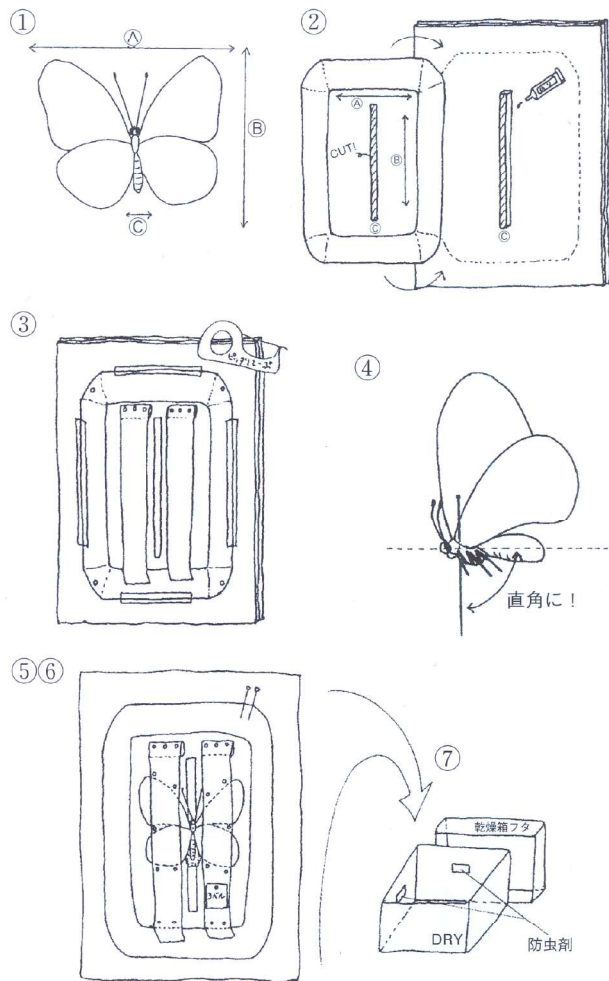
◇スチロール性トレイ: 総菜等を入れている物

◇まち針: たくさん

◇両面テープ: 接着剤でも可

◇カッターナイフ・定規等の文房具類

☞出来れば、昆虫標本用の針だけは買った方が便利



保存箱に布や色紙を貼ったり、並べ方やラベルを工夫すれば、素敵な標本箱になるでしょう。人空を飛ぶ昆虫たちが演出できるかもしれません。(日比)

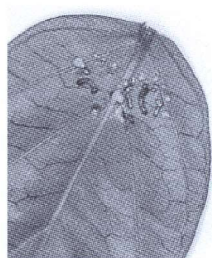
しいく
飼育ニュース(35)しいく
ツマムラサキマダラの飼育

放蝶温室で飛んでいるチョウのほとんどは、昆虫館生まれの昆虫館育ちです。また、その多くは温室で採卵し、飼育室に持ち帰り飼育しています。そして蛹より羽化した成虫をその日の夕方に温室に放しています。

今回は、GONTA44号「ツマムラサキマダラのプロポーズ」で紹介したツマムラサキマダラについて、引き続き産卵や幼虫の行動などを紹介します。

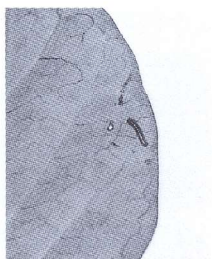
サブ温室での試験飼育から、放蝶温室にも少しずつ飛ばし始め、ツマムラサキマダラの求愛行動や交尾中の個体も見られるようになり、交尾を終えたメスは卵を産むため、食草を探し始めます。温室には採卵用にベンジャミナ(クワ科)とマンデビラ属の植物(キョウチクトウ科)を鉢植えて入れています。メスは鉢植えの食草にはほとんど産卵をしません。では、一体どこに産卵しているのかというと、それは温室で植栽帯として地植えされているガジュマル(クワ科)やベンジャミナです。

メスはそれぞれの新芽や柔らかい葉に産卵しており、やはり地植えの株は鉢植えに比べ、大きく茂り、新芽を多く付けているからでしょうか。



卵は飼育室に持ち帰り累代飼育するため、それぞれの新芽より採卵をしますが、地植えのガジュマルは背丈が高く、4m以上あるので私たちの目の付く、手の届く範囲の新芽でしか行えません。そのため、上の方で孵化したばかりの1令幼虫や時には終令幼虫や蛹が見つかることがあります。このまま放っておくと、幼虫が新芽を好んで食べるため、成虫の産卵する葉がなくなります。さらにガジュマルの見た目も悪くなる恐れがあるので、高枝バサミで幼虫のいる枝を切り、飼育ケースに回収しています。しかし何頭か見逃している幼虫がいるようで、温室で成虫が自然発生しているように思われます。

それではツマムラサキマダラは、卵から成虫になるまでに何日かかるのでしょうか。採卵した卵を25℃の恒温器内で、ガジュマルの葉を与えて飼育し観察しました。生育日数は次の表



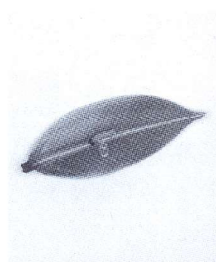
のとおりでした。

ツマムラサキマダラの生育日数(25℃/15L:9D)

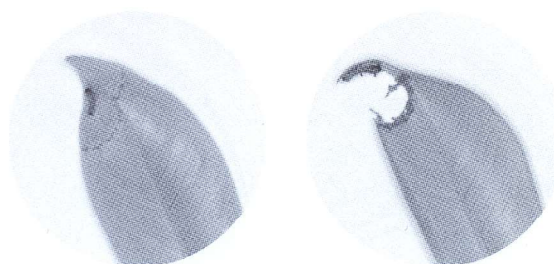
段階	卵	1令	2令	3令	4令	終令	蛹
日数(日)	3~5	2~3	1~3	1~2	2~6	4~7	8~10
卵~蝶	← 26~32日 →						

表を見ると、卵から成虫になるまでに26~32日かかり、設定温度が高かったためでしょうか、2~3令の脱皮が1日と早かった幼虫もありました。また、蛹日数が8~10日とスジグロカバマダラの蛹日数に近かったです。

では、卵から孵化した幼虫はまず最初に、何を口にするでしょう。それは他のマダラチョウ科の幼虫にも見られますが、食草ではなく、孵化するまで自分の身を守ってくれていた、卵の抜け殻を食べてしまいます。▲孵化したばかりの幼虫何故殻を食べるのでしょうか。すごい栄養分でもあるのでしょうか。



そして、幼虫はガジュマルの葉を食べ始めますが、その時、オオゴマダラなどマダラチョウ科の幼虫で見られる独特な食べ方が、ツマムラサキマダラは少し違いました。それはオオゴマダラなどでは、葉の裏から円形の傷を付けてからその内側を食べますが、ツマムラサキマダラの場合丸い円を描かず、葉の端を利用しながら、端から半円に傷を付けてからその内側を食べます。



▲ツマムラサキマダラのガジュマルの食べ方(左:傷を付ける 右:食べた後)

ガジュマルの葉が小さいため、端から傷を付けて食べたのかと思い、代用食であるハウライカガミを与えてみても、同じく葉の端から半円を描いて食べていました。また、この食べ方は2~3令幼虫まで続き、4令幼虫になると葉に傷を付けず食べ出していました。

最後に、今回もツマムラサキマダラについて紹介しましたが、生活史など分からないことばかりなので、引き続いて調べていきたいと思います。(久米)

おんしつ かれい ひじょ

温室の華麗な美女たち(13)

ぱぴがぺ・ペンタス

華麗な美女シリーズも今回で13回目となり、今回の美女を誰にしようかと、今までに登場した美女をおもむろに振り返ってみると、とんでもないことに気付きました。ナ・ナ・ナント、温室にとって大切な美女を紹介するのを忘れていたのです。その美女の名は、「ペンタス」です。



▲ペンタス

ペンタスは、展示温室に地植えと鉢花があり、3種類のペンタスが咲いています。中心となる種類は、ランケオラタという種類で、南アフリカからアラビア半島原産で、クササンタンカという和名があります。温室でペンタスは、チョウの蜜源としては欠かすことのできない植物と言えます。そのため、温室には以前、たくさんのペンタスを地植えしていたのですが、ここ数年の間に、地植えを少なくし、鉢物で栽培して温室内へ導入する方法をとっています。これには理由があって、地植えしているペンタスの花芽に、カメムシの仲間がたくさん発生し、花が咲かなくなったからです。



▲ヒメセダカカスミカメムシ (幼虫) ▲ヒメセダカカスミカメムシ (成虫)

カメムシは、アブラムシやハダニと違い、成虫になると翅があるため、自由自在に温室内を飛び回り、ペンタスの花から花へと移動して行くので、防除が困難です。でも、あまりすばしこくないので、花芽にとまっているところを手でつぶせるため、成虫を見つけ次第つぶしています。それよりもやっかいなのは幼虫です。花芽の奥の方に潜り込んでいて、そのうえ、身体が緑色なのでよく見ないとわかりません。このカメムシが発生すると、花を咲かせること

なく花芽が落ちてしまいます。しかし、鉢植にしてからは、つぼみの小さい時に消毒をするため、かなり数も減り、今までのように大きな被害は出なくなりました。

害虫の話はこのぐらいにして、ペンタスに集まるチョウの話をするにしましょう。ペンタスはとっても人気者で、毎日たくさんのチョウたちが蜜を吸いにやって来ます。オオゴマダラやリュウキュウアサギマダラ、シロオビアゲハなど、ほかにもいろいろなチョウが来て、本当にモテモテの花なのです。



▲ペンタスとオオゴマダラ

ところが、このペンタスの花にあまり興味を見せないチョウもいます。キチョウやタイワンシロチョウといった小型のチョウたちです。どうしてこのチョウたちはペンタスに興味がないのかというと、興味がないのではなく、小型のチョウたちは、大型のチョウに比べると花の蜜を吸うための口吻(ストロー状のもの)が短いため、花卉の長い花の蜜は吸いにくいのです。だから、キチョウやタイワンシロチョウは、ペンタスに蜜を吸いに来ず、もっと小さい花の蜜を吸いに行きます。

ペンタスに多くのチョウたちが集まるので、いったいペンタスの蜜はどんな味がするのだろうか、味見をしたところ、とっても甘くてびっくりしました。私が想像していたよりも数倍甘かったです。こんなに甘いものをチョウたちが毎日吸っていて、「よく虫菌にならないな」ってチョウは菌がないからなりませんね。でも、あまり糖度の濃いものを与えると、口吻が詰まることがあるんですよ。

温室で1日のうちチョウたちが一番花を訪れるのは午前中です。ペンタスにも蜜を求めてチョウたちがたくさん訪れています。ですから、午前中の温室は、花から花へと移動するチョウたちでにぎわっています。昆虫館に出かけるのは、朝一番がオススメかも?! (山本)

クマバチとアベリア

アベリア(ハナゾノツクバネウツギ: *Abelia grandiflora*)という花を知っていますか? 大正年間に日本に導入されたそうですが、大きな被害を与える害虫がいなかったことや、ほぼ常緑で冬の間に葉が落ちないこと、花期が5~11月と長いことなどから、1960年代から各地に植えられるようになりました。

橿原市昆虫館の回りでも、入り口から北側の壁面に沿って帯状に植えられています。

一つの花は長さが15~20mmほどのラッパ型で特に根元5mmほどは直径1~2mmの細い筒状になっています。また、花の色は、一般にややピンク色を帯びた白色が多く、花の多い時期には木全体が白い花で覆われるような状態になります。

この花を見ていると、いろんな昆虫が吸蜜に訪れることに気がつきます。中でも最も目に付くのはチョウやガの仲間。細くて長いストロー状の口(口吻)を持つチョウやガの仲間が蜜を吸いやすい花の形になっていることに関係していると考えられます。

アゲハチョウの仲間はせわしげに翅をふるわせながら軽く脚を花に触れ、花から花へわたっていきます。ツマグロヒョウモンやイチモンジセセリは、小さな花にぶら下がるようにして止まり、吸蜜します。

また、ガの仲間のオオスカシバやホシホウジャクなどがホバリング(静止飛翔)をしながら口吻を伸ばし、花から離れて蜜を吸う様は、温室内のハチドリを彷彿とさせます。

過去に大阪府下で行なわれた調査では、15種のチョウの仲間と28種のガの仲間がアベリアの花に訪れたことが確認されています。(注1)

さて、春から夏にかけて、昆虫館の周りでこれらのチョウやガの仲間の次に目に付くアベリアの花のお客さんは、クマバチでした。

クマバチも花にぶら下がるように止まり蜜を吸いますが、クマバチの口はチョウの様に細いストロー状ではありません。では、クマバチはどうやってアベリアの花の蜜を吸うかわかりますか?

離れて見ていると、花に止まったクマバチはすぐさま花の奥に頭を突っ込んでいる様に見えますが、近づいてよく見ると、花の中ではなく花の外側の付



け根付近に顔をつけています。そして、クマバチが去った後の花をよく見ると、花の付け根の部分が縦に大きく裂けているのです。大アゴを使うかどうか分かりませんが、クマバチはアベリアの花の付け根に穴をあけ、そこから蜜を舐めていたのです。

そこで、改めてアベリアの花を見ると、昆虫館の周りでは実に多くの花で穴が見つかりました。

アベリアの花は古くなると筒状の花弁がそのまま地面に落下します。この地面に落ちた花弁を調べてみたところ8割もの花に食い破られたと思われる穴が見つかりました。

しかし、花に飛来するクマバチの個体数は決して多いようには思えません。1回の調査で見かける個体は多いときで2個体でした。ただ、クマバチもチョウやガの仲間と同じように花から花へと蜜を吸いながら飛びまわりますから、個体数が少なくても多くの花が傷つくのでしょうか。

さらに、アベリアにはクマバチ以外にもセイヨウミツバチやニッポンヒゲナガハナバチ等の小型のハナバチも少ないながら飛んできます。彼らもまたもに花に顔を入れて蜜を吸うことは出来ない様で、クマバチと同様に花の外側の付け根に口をあてています。しかし、見ていると、彼らは自分で穴をあけて蜜を舐めるより、先にクマバチが穴をあけた花をもっぱら利用しているようにも見えます。そして、実はこのクマバチの開けた穴はチョウも利用する事があるようなのです。左の写真を見てください。このジャコウアゲハの口吻は花の付け根に外側から差し込まれているのが分かりますか?



もう少し観察例を増やして確認する必要がありますが、もしかすると、春から夏にかけてのアベリアの花では、クマバチと他のハナバチ仲間、チョウやガの仲間などの虫達の間に面白い関係が見えてくるかもしれません。もっとも、アベリアは交雑種の為か、いくら花が咲いても種子ができないので、花にとっては、正面から蜜を吸われようと横から盗蜜されようと同じかもしれません。(木村)

(注1) 桜谷保之 (1998) アベリアをめぐる昆虫。昆虫と自然. 33(10): 30~32

でばん ま 出番を待つちょうちよたち

昆虫館の温室内は、18℃以下にならないようになっていて、年中温室ではチョウが飛び交っています。ですが季節展示として、短い期間にしか姿が見られないチョウもいます。そのチョウとは、ギフチョウとウスバシロチョウです。これらのチョウは、野外では年に1回の発生で短期間しか見られません。この2種について簡単ですが紹介したいと思います。

〔ギフチョウ〕

別名“春の女神”と呼ばれご存じの方も多々います。アゲハチョウ科に属し、体は他のアゲハチョウよりも毛深く、^{ぜんしちよう}前翅長は27～36mmの小型のチョウです。春の女神といわれるだけに、ナミアゲハなど他のアゲハチョウよりも早く春先に姿が見られます。昆虫館では、昨年^{さなご}の4～5月に幼虫を飼育し



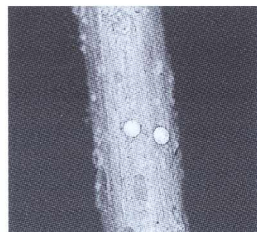
▲ギフチョウの蛹

蛹を保存しています。蛹の保存期間は何日ぐらいだと思いますか？1カ月それとも2カ月…実は5月に蛹になり、翌年の3月で羽化するので約10カ月間蛹の状態です。

暑い夏も寒い冬も蛹で越します。

〔ウスバシロチョウ〕

暖かい地域では、4月下旬～5月中旬に成虫が見られます。開けた場所や畑、田んぼ^{あぜ}などに成虫がひらひらと飛んでいて、翅が白色なのでモンシロチョウのように見えます。ウスバシロチョウと名前がついていますがシロチョウ科ではなくアゲハチョウ科です。また、別名“ウスバアゲハ”ともいいます。このウスバシロチョウの成虫を採集し採卵したところ、56個の卵を産みました。ナミアゲハや他のアゲハチョウでは3～4日するとふ化しますが、ウスバシロチョウは翌年の2月にふ化します。ギフチョウなどと違って蛹ではなく、卵の状態



▲ウスバシロチョウの卵

間過ごし生姿も少し変わっています。詳しいことがわかれば、今後報告します。温室内でこの2種類のチョウの飛翔している姿が見られるようにしたいです。乞ご期待！

(島田)

ダンゴムシ？それとも…その^{しょうたい}正体は

昆虫の一番の嫌われ者といえばゴキブリと答える方が多いと思います。こんな嫌われ者のゴキブリにも変わった生態をもったものもいます。マルゴキブリ科のヒメマルゴキブリです。体長はメスで12～13mm、オスは10mm程です。ですが、オスはまだ見たことがありません。黒褐色でオスには翅^{はね}がありますが、メスにはありません。一見タマヤスデかダンゴムシに似て、背面から見ると触角^{しよくかく}がでていて頭が少し見える程度で脚は見えません。石垣島・西表島・沖縄島・奄美諸島・九州・台湾に分布しています。照葉樹^{しょうようじつ}林の林床の樹皮下や倒れた朽ち木内に生息しており、昼間は樹皮の下などでじっとして、外へはあまり出ず夜になるとよく動き回ります。他のゴキブリにない特徴として、刺激を与えるとまるでダンゴムシのように体を丸めて外敵から身を守ろうとします。

落ち葉の下や石の下には見られず、高木の幹やすきまなどにメスの成虫や幼虫が数匹かたまっているところを採集しました。採集したのは、翅がないのでメスの個体ばかりですが飼育してみました。飼育容器に、腐葉土^{ふようど}を敷き、かくれ場所に木片をいれて

おきます。でも、ふたの隅によくかたまっています。飼育していくためには、エサが必要となりますが、野外では何を食べているのかよくわかりません。そこでリンゴを与えてみると、少しですが食べ跡^{あと}がありました。個体が小さいため食べ跡も小さいです。

ある日よく見ると、1.5mmぐらいの幼虫が10匹程度ふ化していました。ふ化したばかりで、体の色も白色でした。メスの成虫の体の下に幼虫がひとかたまりになり成虫に触っても動こうとせず幼虫を守っているように見えました。今後、飼育を続け展示し、来館者のみなさんに見ていただくことができるようにしていきたいと思っています。今のところは、飼育し観察してわかっているのはここまでで、詳しくは、次の機会に報告します。

(島田)



▲丸まったメス（成虫）

▲幼虫を守っているメス

たんぽのイナゴを食べてみた！

今年度の第13回特別展『たんぽの虫たち・生き物たち』(開催期間 7月31日～11月18日)では、恒例のむしムシゼミな～ると観察教室に加えて、少し欲張りな関連行事を企画してみました。

第1回 ザリガニを釣ろう！

第2回 彼岸花で首飾りを作ろう！

第3回 ウンカの言葉を聞いてみよう！

第4回 イナゴを食べよう！

第5回 稲わらの行方～しめ縄やわらじを作ってみよう！

むしムシゼミな～る『タウナギって何？』

長年、タウナギを自宅のたんぽと水槽で飼育されている松本清二先生に、不思議なタウナギの生態についてお話をいただきました。参加者の中には、毎朝夕、たんぽのタウナギの元気な様子を見に行つて、あいさつしていますというおばあさんもおられました。蛇そっくりのグロテスクな外見にもかかわらず、予想以上に子供からお年寄りまで幅広く人気がありました(タウナギの生態についてはGONT A44号参照)。

特別展の期間中、大阪府柏原市の小学校の生徒が、たんぽの虫について詳しく知りたいということで来館され、害虫の講義を行いました。総合学習で校庭にビニールシートをはって、たんぽを作って稲を育てているということでした。講義では、ウンカは海を越えて飛んでやってくることや、ウンカの鳴き声(?)も聞いてもらいました。害虫を退治するために農薬を撒いたのに、かえって害虫が大発生してしまうこともあり、たんぽには、害虫、益虫以外にどちらでもない「ただの虫」の虫もいること、カブトエビの生態についても解説しました。

新企画の関連行事の中で、『イナゴを食べよう！』について紹介しましょう。食材に用いたのは、コバネイナゴで、9月下旬から、たんぽでよく見られます。稲刈り直後のたんぽや畦の草むらを探せば、1時間で100匹程度は、簡単に採集できます。

《イナゴの調理法》

採集したイナゴは、1～2日、何も与えずに、脱糞させます。熱湯で5～10分程度煮て、2～3日天火で干します。乾燥したイナゴを、砂糖、醤油、日本酒で味付けをして、鍋で佃煮にします。天火干したイナゴに天ぶら粉をつけて、から揚げにしてもおいしい。今回は、上記の他にイナゴの風味を味わってもらうために、煮沸後は、天火干しせずに、水分を切った後、天ぶら粉でから揚げしました。

子供たちには、このから揚げが大好評で、最初イナゴを食べるのに「死ぬほど勇気が必要」と言っていた子供が、おいしいと何回もお代わりして食べていました。まあ言うなれば、通過儀礼みたいなもので、一生の思い出になったのではないかと、ほくそ笑んでいます。食べ物がなくても、イナゴを食べれば餓死することはないと、心の器も大きくなったかもしれません。(中谷)



▲イナゴって、こんなにおいしいなんて！



▲ビールのおつまみにもいける！？

『イナゴを食べよう！』 参加者アンケートより

- ・初めて食べましたが、やっぱりちょっと根性が要りました。(46才・男性)
- ・から揚げが一番美味。ビールのあてにはぴったりです。(45才・男性)
- ・子供はすごいと思った。すごくおいしそうに食べてたし、とても気に入ったみたいでした。とても楽しかったです。(41才・女性)
- ・初めての経験なので、はりきって参加したけどやはり最後まで食べることができなかった。でも子供たちが、よくわかっていないのか、わかっているのか喜んで食べてました。生きていくために食べることは必要なんだけど、現代ではいろんな食べ物が出てきてぜいたくになり、味より見た目が重要になってしまっています。自分自身、根性鍛えて今度はチャレンジしたいです。(29才・女性)
- ・孫と参加しましたが、参加する前はたべるのは、絶対いやと言っていた孫が1回食べると美味しい美味しいと何回も並んで食しました。イナゴはこんなにおいしいとは思いませんでした。(57才・女性)
- ・滅多に食べる機会がないので、子供達によい機会だと思い参加したが、予想外に子供が喜んでいたので良かった。これからは、「あつ、バツだ」といって親子で「おいしそうだね」というかもしれません。(40才・女性)
- ・孫たちに思いもよらない体験をさせられたこと、また、小生自身もなつかしく子供時代を思い出させてくれました。両親や友達に大声で報告することでしょう。孫たちにせがまれて来ましたが、大変意義がありました。(62才・男性)
- ・実に美味しかったです。家に帰っても自分で採集、調理しようとおもいました。

パプアキンイロクワガタ

今までもGONTAで、昆虫館で飼育している海外産のカブトムシやクワガタムシのことを何回か紹介してきましたが、今回は「パプアキンイロクワガタ」のことを紹介したいと思います。

このクワガタムシは名前の通り、パプアニューギニアに分布しており、体長は20～45mmと小型です。

体色は緑色を帯びた金属光沢をしており、特にメスはオスに比べてツヤがあり、色の変化にも富んでいて赤や青といった色の個体も出る、非常にきれいなクワガタムシです。そしてオスは上に大きく反り返った特徴のある大あごをしています。



▲パプアキンイロクワガタ

昆虫館では一昨年の11月から飼育を始めて、繁殖にも取り組んでいます。そして、昨年の5月2日に産卵用のケースを掘り返してみたところ、2令や3令に育った幼虫を多数回収することが出来ました。この回収した幼虫は、大あごでお互いにかみ合っ

けがをしてしまわないようにするために1匹ずつ別々の小さなケースに入れて飼育しました。すると、6月14日に最初の蛹化を確認し、7月3日には最初の羽化を確認することが出来ました。

普通クワガタムシの蛹は、脚を縮めて、大あごと頭部をお腹のほうに折り曲げた形になっているのですが、パプアキンイロクワガタは違っていました。脚は他のクワガタムシと同じように縮めていましたが、頭部は曲げずに伸ばしており、大あごは既に上に反り返っている形で蛹になっていました。このことは実際に自分で飼育してみるまで知らなかったことなので、変わったクワガタムシがいるものだと驚きました。

一風変わったクワガタムシですが、展示ケースの中では、他の大きなカブトムシやクワガタムシのせいで影が薄くなってしまい、あまり目立ちません。きっと、見落とされて帰ってしまわれた方も多いかと思います。ですから、この記事を読まれた皆さんは、ぜひ展示ケース内のパプアキンイロクワガタを見つけてください！ (佐々木)

いんぷおめいしよん

▶ 1月 冬の虫観察会

日時：2002年1月27日(日)午前10時30分～午後3時頃
場所：昆虫館会議室集合～野外観察(徒歩約3.5km)
内容：野外で昆虫の越冬している姿を観察します。
対象：小学生以上で、親子又は家族単位

定員：50名

[雨天中止]

持物：弁当・水筒・筆記用具等(野外観察の服装で)
参加費：無料(入館料が必要/大人400円・学生300円・小人100円)
申込：往復葉書に、行事名、参加者の氏名・年齢(学年)、住所と電話番号を記入し、1月17日(木)必着で昆虫館にご応募下さい。応募多数の場合は抽選です。

▶ 2月 第34回観察教室

昆虫館裏方体験

日時：2002年2月23日(土)午後1時30分～午後4時頃
場所：昆虫館会議室集合～館内及び周辺
内容：昆虫館の舞台裏で、虫達や植物を世話します。
対象：小学3年生～6年生 定員：15名
持物：筆記用具等(作業しやすい服装でご参加下さい)
参加費：無料(入館料が必要/大人400円・学生300円・小人100円)
申込：往復葉書での申し込み(お問い合わせ下さい)

▶ 第13回企画展「世界を飛翔する美麗蝶達」

～足立貞夫コレクション公開～

期間：2002年3月12日(火)～5月12日(日)
会場：橿原市昆虫館 二階展示室一角

▶ 企画展関連ミニイベント「温室放蝶サービス」

昆虫館の温室に、あなたの手で蝶を放しませんか。
企画展期間中の毎週土曜午後3時頃より、計画中！

▶ 3月 第34回むしムシゼミな～る/企画展関連行事「チョウの謎を追う」

～紀伊半島のチョウ研究最前線

日時：2002年3月21日(木・祝)午後1時30分～4時頃
申込方法など、詳しくはお問い合わせ下さい。

橿原市昆虫館だより GONTA Vol.12 No.1

2002年(平成14年)1月3日発行 (通巻45号)

編集・発行/橿原市昆虫館

〒634-0024 奈良県橿原市南山町624番地

Tel.0744-24-7246 Fax.0744-24-9128

<http://www.city.kashihara.nara.jp>

印刷・製本/株式会社 アイブリコム